

こんなに巨費を投入してまで老朽炉を再稼働？工事を中止し廃炉にすべき

関電は2月4日、高浜1・2号、美浜3号の対策工事完了時期を約6～9ヶ月延期すると公表した。その理由として、高浜1・2号は、背面の狭いスペースにいくつもの大規模工事が集中し、工期をずらす必要があること等を挙げている。美浜3号は、同様に工期をずらす必要がある他、構台の設置等を挙げている。これらの工事のために、高浜1・2号は約2,160億円、美浜3号は約1,650億円もの巨費を投じる。一方で廃炉費用は高浜1・2号で各450億円、美浜3号で490億円とされている。しかし、原子炉容器や電気ケーブルは取替ができない。工事の進捗はまだ半分程度に過ぎない。老朽炉に巨費を投じるのは止め、工事を中止・廃炉にすべきだ。

原発	工事件名	年度	2016	2017	2018	2019	2020
高浜1	全体工程				現時点	▽2019.8	▽2020.5
	格納容器上部遮蔽設置						
	燃料取替用水タンク取替						
高浜2	全体工程					2020.3	▽2021.1
	格納容器上部遮蔽設置						
美浜3	全体工程					2020.1	▽2020.7
	使用済燃料ピットラック取替						
	使用済燃料ピット補強						
	構台の設置						
	炉内構造物取替						

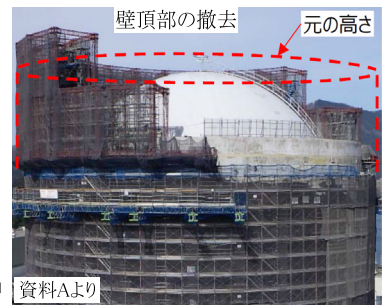
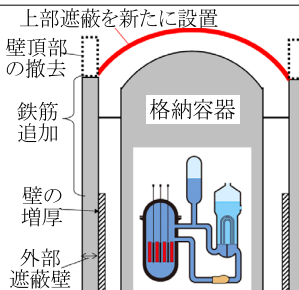
今回、関電が遅れると公表した工事の一部を紹介する。

▽当初完了時期 ▼延期後の完了時期 □クレーン倒壊による準備作業の中断期間 ■工事延長期間
 「高浜1,2号機および美浜3号機の安全性向上対策工事の実施状況について」(2019.2.4関電)以下「資料A」より

高浜1・2号

格納容器上部遮蔽設置

重大事故時の放射線低減のためとし、原子炉格納容器上部を覆う鉄筋コンクリートの上部遮蔽を付ける（これまで格納容器の周囲に外部遮蔽壁はあったが、上部に遮蔽は無かった）。



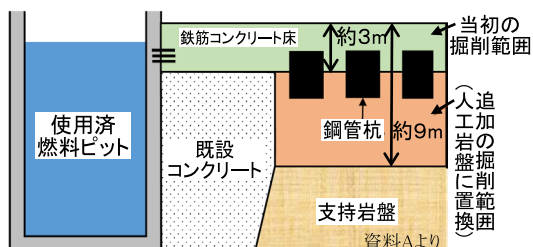
日本原子力学会 第5回「原子力安全夏期セミナー」資料(2017.8.23)より

資料Aより

美浜3号

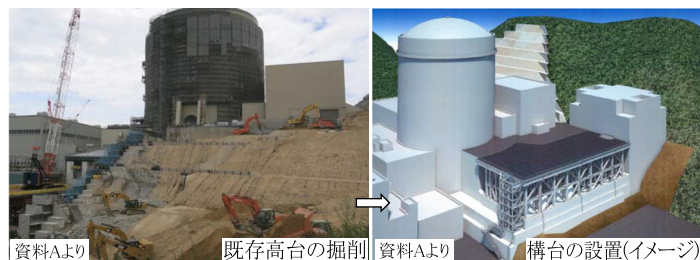
←使用済燃料ピット補強

使用済燃料ピット背面に鉄筋コンクリート床を設置し、これとピットを連結し耐震補強する。しかし、鉄筋コンクリート床設置のための掘削中、予想より支持岩盤が深いと分かり、掘削深さを約3mから約9mに変更し、人工岩盤を設置することにした。



構台の設置→

「既存の高台が地震で崩壊する可能性があるため」掘削し、人工岩盤に置換え、構台（鉄骨）を設置する。



資料Aより

資料Aより

資料Aより

資料Aより